

会 議 録

会議の名称	平成25年度第2回所沢市自立支援協議会定例会
開催日時	平成25年11月7日(木)午前10時00分から正午
開催場所	所沢市役所3階 全員協議会室
出席者の氏名	会 長 鈴木 喜代子 副会長 谷田 悦男 委 員 松本 弘、 高野 美喜子、 小田 利文、 永添 晋平、 小原 共子、 市川 博子、 小野寺 健、 奥村 歩、 鈴木 恭子、 青木 咲奈枝、 原田 真哉、 小林 宏治、 小野寺 耕二、 宮本 英行
欠席者の氏名	委 員 高橋 三恵子、 手塚 章太郎、 平岡 真由美、 粟飯原 建四郎、 美甘 有利恵、 真田 里美
説明者の職・氏名	
議事	1 平成25年度上半期各部会活動報告について 2 平成25年度上半期所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について 3 その他
会議資料	・ 次第 ・ 部会活動報告書 ・ 相談支援事業実績報告書 ・ 基幹相談支援センターとは
担当部課名	事務局 福祉部障害福祉課 課 長 磯野 尊治 福祉部障害福祉課 副主幹 足立 啓 福祉部障害福祉課 主 査 安座間 隆 福祉部障害福祉課 主 査 森田 茂明 福祉部障害福祉課 主 任 岩雲 一如 福祉部障害福祉課 主 任 神野 信 福祉部障害福祉課 主 事 山田 二郎 福祉部障害福祉課 04 - 2998 - 9116

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	1 開会
事務局	・ 配布資料の確認
会 長	・ 開催挨拶
事務局	・ 所沢市自立支援協議会運営要綱第6条により会長が議長となる旨の確認
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会に関して、会議は所沢市情報公開条例第25条により原則公開であること、会議録の記載方法については要約方式をとること、発言者名の記載については省略とすることの確認 ・ 傍聴希望者数の確認
	2 議事
/	(1) 平成25年度上半期各部会活動報告について
委 員 (こども部会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ こども部会の活動報告 所沢の教育と福祉をつなげることをテーマとして活動してきた。11月に関係機関職員による懇親会を開催し、ネットワーク作りを図った。12月には発達障害に関する研修会を実施予定である。
委 員 (くらし部会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ くらし部会の活動報告 定例会議では、障害者の地域生活の権利に焦点を当て、事例検討を続けてきた。特に、知的障害者の意思決定支援は重要な課題であるとの意識を共有した。しごとワーキングチームでは、就労関係機関の役割の整理や、障害者を受け入れる企業開拓の必要性を議論した。
委 員 (相談支援部会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援部会の活動報告 相談支援事業所間で、相談支援体制の課題の共通認識を図った。業務量が増える中で、1事業所で案件を抱えてしまうことがあるので、事業所間の連携を強化するとともに、相談支援の質の向上や、相談員数の確保についても検討したい。また、基幹相談支援センターについての情報収集や検討も続けていきたい。
/	(以下、各委員から次のとおり意見)
委 員 (所沢しあわせの里)	<p>障害児分野において、放課後デイサービス、学童クラブ、日中一時支援と、徐々に社会資源が増えてきていると感じる。利用者が事業所を選べる状況は望ましい。</p>

委員 (ぼぶり)	こども部会に参加しているが、教育と福祉をつなぐことの大切さを感じている。まだまだ相談支援事業所と学校との連携は少ないと思うので、強化していきたい。
委員 (松原学園)	こども部会で、園児の事例を検討していただいた。園児を小学校に送り出すにあたって、支援体制を円滑につなげていく必要がある。園単独で解決できなかったようなケースについて関係機関の意見をいただき、参考になった。
委員 (所沢特別支援学校)	私は就学支援員として就学相談にかかわっているが、学校の先生、親御さん共に、他の機関につながる事が出来ず、苦勞されている例が多い。関係機関同士、いかに連携していけるかが重要だ。
委員 (親の会)	自立支援協議会について、その活動を知らない当事者も多いので、発信していくことの大切さを感じる。
委員 (狭山保健所)	発信の前提として、委員それぞれの日常業務の中の疑問点などを、部会の中で整理し、委員間で共有していければと思う。
委員 (国リハセンター)	くらし部会などに参加し、得られた情報をセンター内で共有している。障害者の地域生活の権利は利用者にとっては大事なことだと思う。しごとワーキングチームについても、引き続き議論を続けていきたい。
委員 (医師会訪問看護ステーション)	日常業務の中では、患者本人だけでなく、家族も問題を抱えていることがあるので、相談支援事業所を紹介するなどの連携が必要と感じている。
委員 (ところざわ学園)	くらし部会の研修企画チームに参加している。普段、法人内での職員の人材育成に難しさを感じているので、他法人でも同様であれば、地域の課題として取り上げて研修をおこなうこともでき、地域の福祉職員の質の向上を図ることが出来ると思う。
委員 (とことこの家)	くらし部会の事例検討に始めて参加し、参考になった。また、くらし部会で今度企画している研修では、福祉サービスについて掘り下げる予定となっており、サービス事業所が分かっているようで分かっていない制度のことを学べるのではと思う。
委員 (民生委員)	地域での見守りの中で、特に、精神障害の方の状況把握が難しい。関係機関と連携し、サービスにつなげていきたい。
委員 (健康管理課)	権利擁護の分野で、あんしんサポートねっとの利用件数が増加しているので、今後も円滑な利用が出来るよう、くらし部会などで議論ができればと思う。相談支援事業所については、計画相談支援に追われている状況があるので、事業所をどう増やすか、質をどう高めるか、自立支援協議会としても盛り上げていければ良いのではと思う。

<p>委員 (相談支援事業所)</p>	<p>法人内での人材育成については、現場職員のモチベーションアップを図る必要がある。法人単独で難しい部分は、くらし部会での研修などでフォローできればと思う。</p>
<p></p>	<p>(2) 平成25年度上半期所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について</p>
<p>委員 (所沢しあわせの里)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所沢しあわせの里の相談支援事業報告 実利用人員142人中、55人が委託相談支援利用者。以前と比べると、知的障害者の利用が増えている。市内の利用者以外にも、市外から国リハセンターに入所している利用者のモニタリング作成業務も行っている。機能強化事業としては、困難ケースへの対応を行ったが、人材育成業務については、現状の5社横並びの相談支援体制では困難な部分があり、今後、基幹相談支援センターが担っていくのがふさわしいのでは、と感じる。
<p>委員 (ところざわ障がい者相談支援センター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ところざわ障がい者相談支援センターの相談支援事業報告 初回相談者の中で、約半数強が委託相談支援利用者。計画相談と比べ、委託相談の方が、より時間を要する、介入の難しいケースが多い。人員配置の面で、法人内で対策が必要だと感じる。職員は、広く浅く経験を積んでいるが、専門性を高めていくことも重要だと思う。機能強化事業としては、他事業所との連携強化が必要だが、基幹相談支援センターがその部分を担えれば、より連携は進んでいくのではないかと感じる。
<p>委員 (ぼぶり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぼぶりの相談支援事業報告 年度途中に社会福祉士の常勤職員を1名増員した。来年度以降も増員を検討中。相談の内容としては、福祉サービスの利用に関することが多い。家族の高齢化によって直面する問題も増えてきた。医療的ケアが必要な方の生活の場や通院先が市内に乏しいことも感じている。
<p>委員 (さぼっと)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ さぼっとの相談支援事業報告 知的障害者の利用が8割を占める。今年度は、法人内の新規事業に伴う新規相談者が増えている。人員の確保が課題となっており、法人内で検討している。相談を通して課題として感じるのは、障害児の放課後や休日の支援、短期入所などの社会資源の不足である。また、家族への支援が重要になるケースもあり、行政を含めて連携を強化していきたい。

委員 (所沢どんぐり)	<ul style="list-style-type: none"> 所沢どんぐりの相談支援事業報告 <p>計画相談支援の開始により、訪問相談の機会が大幅に増えた反面、事業所内で相談を受けられないケースが出てきてしまっている。一方で、計画相談支援をきっかけに委託相談支援につながるケースも増えてきており、モニタリングだけにとどまらない、定期的な相談につながることもある。市外のサービス事業所利用者のモニタリングについては、現地への移動に相当の時間を要するので、市外の相談支援事業所の活用を含め、検討の余地があると思う。</p>
	(3) その他
事務局	基幹相談支援センターについて説明。
	(以下、各委員から次のとおり意見)
委員 (所沢しあわせの里)	今後、特定相談支援事業所を増やす必要があると思うが、基幹相談支援センターは、新規で参入してくる事業所のバックアップなどを行うべきだ。ただ単に、相談の窓口を増やす、という計画ではいけないと思う。
委員 (ところざわ障がい者相談支援センター)	処遇困難なケースに対応する場合、1事業所だけだと支援に際しての知識が不足する場合があるが、基幹相談支援センターがあれば、チームでの支援がしやすくなると思う。
委員 (ほぷり)	現状では、各相談支援事業所が少人数で相談業務をおこなっているが、複雑化する相談内容に対応できるような機能が基幹相談支援センターにあれば良いのではないかな。
委員 (さぼっと)	基幹相談支援センターは、市全体の相談支援体制の質を高める役割が必要。たとえば、現状では各事業所が各々で行っている職員育成のプログラムを統一的に行うことなどが考えられる。
委員 (所沢どんぐり)	当事業所では、現状では精神障害の方の相談の割合が非常に多く、障害種別によっては対応が難しい場合がある。基幹相談支援センターでは、どの障害種別の方でも相談に応じられるような体制が取れればよいのではと思う。
会長	基幹相談支援センターについて、相談支援事業所から意見が出たが、次回の定例会では、他の委員からの意見もいただき、基幹相談支援センターの位置付けやあり方について、自立支援協議会としての意見が出せるよう、議論をしたい。
副会長	閉会挨拶